

「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会

第1回未来の公共交通まちづくり 検討部会



～市民の皆様と共に
「人が主役の魅力あるまちづくり」を推進するために～

鴨川



先斗町通

平成20年8月7日 京都市

「歩くまち・京都」が目指す理念 ～京都市民の誇り～



京都市民の誇り

市民の皆様一人一人が守り続けてきた京都の魅力

環境

- 三方を山に囲まれた山紫水明の自然
- 京都議定書誕生の地
- 世界一美しいまちの実現を目指した、まちの美化活動～「門掃き」「打ち水」の伝統



航空写真



先斗町通

景観・文化

- 古くから歌にも詠まれた優れた眺望景観
- 京町家の保全・再生
- 14箇所の世界遺産など、1200年の歴史に育まれた世界に誇る伝統と文化を有する



出典:京町家.net

14箇所の世界遺産



金閣寺



高山寺



上賀茂神社



龍安寺



銀閣寺



下鴨神社



天龍寺



仁和寺



二条城



清水寺



西芳寺(苔寺)



東寺



西本願寺



醍醐寺

写真出典:京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課

京都市民の誇り

観光・経済

- 入洛観光客数4,900万人突破
- 観光客を温かくもてなす心
- 伝統産業や先端産業に象徴されるものづくり都市



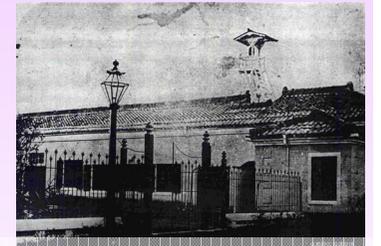
子育て・教育・コミュニティ

- 町衆文化に育まれた歴史ある地域コミュニティが息づく大都市
- 日本初の学区制小学校以来の学校を中心とした高度な自治組織
- 新しいものに挑戦してきた進取の精神

琵琶湖疎水
水力発電

公共交通

- 日本で初めての路面電車を民間の力で実現(明治28年)



明治初期の旧柳池小学校



交通と市民生活の関係

いつまでも住みつづけたい京都、何度でも訪れたい京都でありたいから…



健康



楽しく歩き、自転車に乗ることによる健康増進
徒歩・自転車利用率が全国政令市トップ



環境



“Do you Kyoto?”を世界に発信
他都市より厳しい環境保全基準を制定



子育て・教育



人が行き交い、子どもと大人が触れあい、「あいさつ」が育てる京都の教育文化



景観・文化



趣のあるまちなみ・景観を50年後、100年後も守り育てる「新景観政策」



コミュニティ



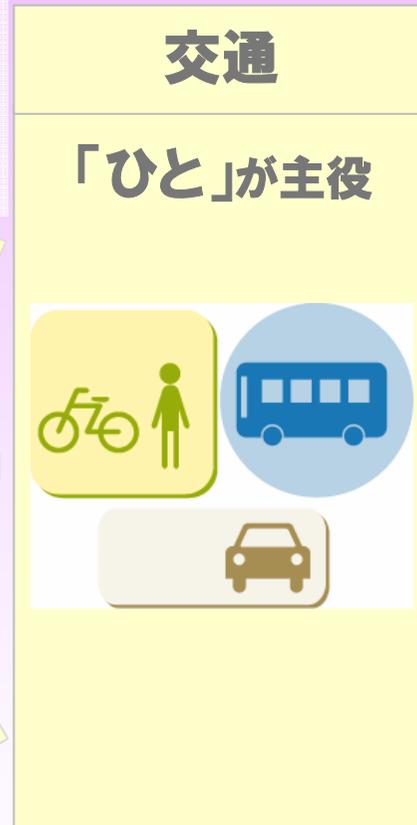
1200年の歴史ある町衆文化を活かし、人がにぎわう地域コミュニティを創出



観光・経済



世界中の人に、また来たくなる「京都」を発信する魅力ある歴史観光都市を実現



「ひと」を交通の中心に考え、「歩くまち・京都」を世界に発信

京都のまちづくりの基本原則

緑を育み、コンパクトに住まい、
徒歩・二輪と公共交通で移動するまち

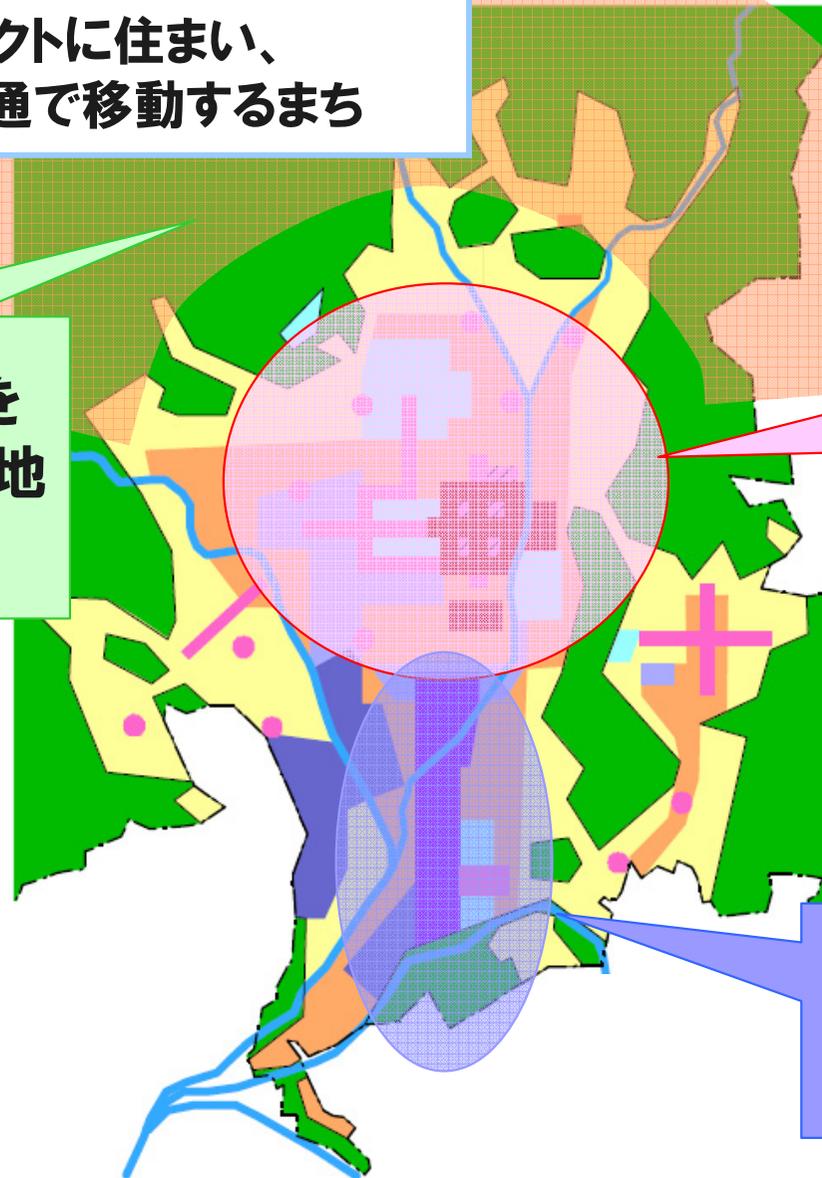
京都のまちづくりの基本原則

「環境」を基軸とした
「保全・再生・創造」

将来においても保全を
続ける周辺の山々・農地
(保全)

徒歩圏で展開され
るコンパクトな都心
(再生)

新しい公共交通軸で支え
るコンパクトな南部地域
(創造)



京都の「交通まちづくり」は何を目指すか

- **クルマ依存型(かつてのアメリカ型まちづくり)**
 - 自動車の利用を前提とした都市形成
 - 郊外の大型ショッピングセンター
 - マイカーが生活の必需品
- **ひとと公共交通優先型(ヨーロッパ型まちづくり)**
 - マイカー抑制と公共交通優先により、多くの人がまちに集まり、賑わいを生み出す持続可能な都市として発展

世界の流れは「クルマ依存型社会」からの脱却



アメリカも
含めて



検討部会における検討内容



平成19年10月実施 四条通における
「歩いて楽しいまちなか戦略」社会実験の様子

「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会

「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会

設置目的：「人が主役の魅力あるまちづくり」を強力に推進するため、公共交通優先の「歩いて楽しいまち」の実現を目指した「歩くまち・京都」総合交通戦略を策定

審議会委員は、健康、環境、公共交通、子育て・教育、コミュニティ、景観、観光、経済などの観点から、幅広い分野の方々に構成

委員の構成(24人)

学識経験者(5人)	: 交通まちづくり、環境、福祉など
経済界、有識者等(10人)	: 京都商工会議所、有識者(教育、文化、医療、情報、マスコミなど)
交通事業者(4人)	: JR西日本、阪急電鉄、京阪電気鉄道、京都市交通局
国土交通省(2人)	: 近畿地方整備局建政部長、近畿運輸局企画観光部長
京都府(2人)	: 京都府総務部長、京都府警本部交通部長
京都市(1人)	: 副市長

京都の持つ文化力・人間力を結集、融合することにより、「京都力」を最大限に生かした議論を行います

公共交通ネットワーク 検討部会

- 利用者の視点に立った公共交通のネットワーク化の検討など

未来の公共交通まちづくり 検討部会

- 環境に優しく利便性の高い未来の交通システムの検討など

公共交通優先のライフスタイル 検討部会

- 大胆なマイカー抑制を市民ぐるみで進めるためのライフスタイルのあり方の検討など

各検討部会での検討内容

未来の公共交通 まちづくり

- 未来の公共交通のあり方の検討(エコ&インテリジェント高機能バスシステムやLRT、新たなバス専用レーン設定など)
- 地域別の未来の交通体系のあり方(都心部、交通不便地域)
- ロードプライシングの導入

公共交通ネットワーク

- 新たな公共交通ネットワークの構築(地下鉄等を軸とするバス交通網の再編やネットワークによる新たな料金体系など)
- 乗り継ぎ利便化方策(割引運賃導入、バリアフリー化推進、ICカード乗車の促進など)
- 交通不便地域のあり方(山間部等の生活交通確保方策など)

公共交通優先の ライフスタイル

- 幅広い行政分野を視野に入れた公共交通優先のまちづくりを目指したライフスタイルのあり方を検討(エコ通勤、エコショッピング、自転車利用促進など)
- 歩行者優先憲章
- モビリティ・マネジメントの施策の推進

審議会全体のスケジュール

平成20年7月11日 第1回審議会の開催

平成20年～21年夏 審議

（審議会は2箇月に1回開催予定

検討部会は1箇月、又は2箇月に1回開催予定）

モビリティ・マネジメントの施策として市民意識調査の実施

平成21年3月頃 中間とりまとめ

パブリックコメントの実施

平成21年夏 最終とりまとめ・答申

検討部会での使命と役割

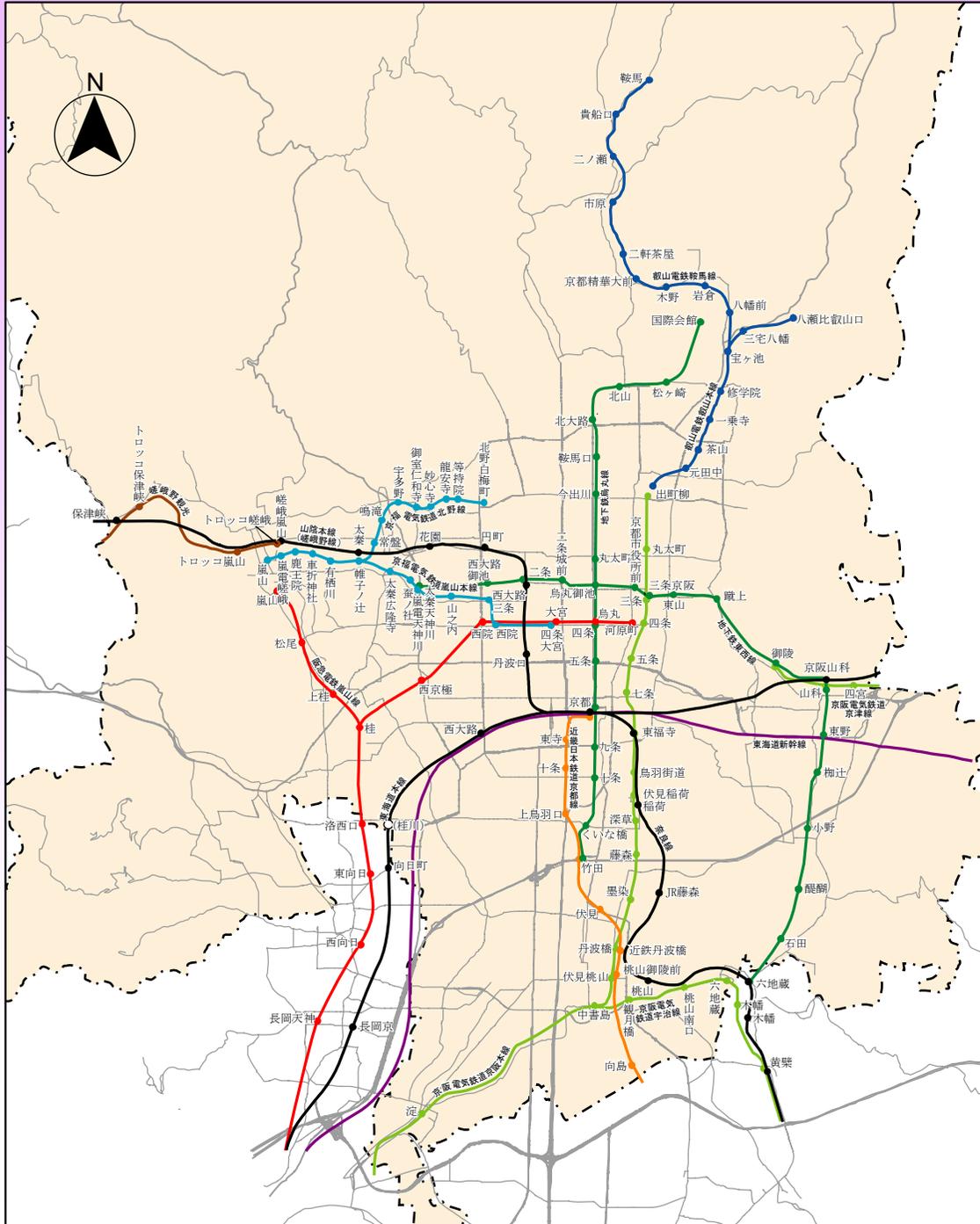
検討部会の使命

京都の誇りや魅力を守り育て、後世に残していくため、**人が主役**の魅力あるまちづくりを構想すると共に、**地域主権時代**の全国のモデルとなる、**歩いて楽しいまちの実現**を目指す



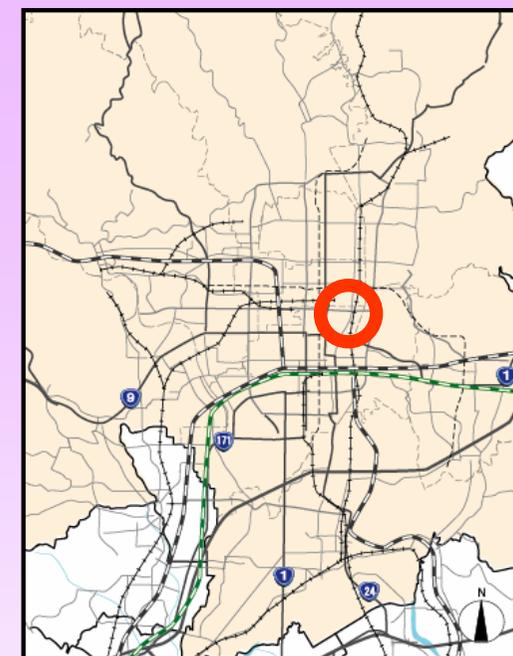
- 「歩くまち・京都」の理念のもとに、歩行者を最優先とする**“京都オリジナル”**の**“都市と交通”**のビジョンを明確にするとともに、それを実現する**具体的な施策**を提案する。
- ビジョンに基づいたまちづくりを確実に進めるために、**施策効果**に対する**“数値目標”**を設定する。

京都市の交通の現状



京都市域の鉄道ネットワーク

1. 都心エリアの交通状況①



- 都心部の繁華街では、狭い歩道に多くの歩行者が集中
- 歩行者と自動車がアンバランスな状況
- 歩行者が安心・安全で快適に歩くことができているか懸念



2. 都心エリアの交通状況②



(花見小路)

- 祇園、花見小路や白川南通など、石畳の道路では、人と車がうまく共存
- 河原町蛸薬師や新京極通などでは、多くの人で賑わっている



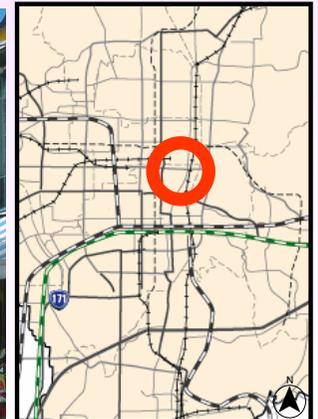
(新京極通)



(白川南通)



(河原町蛸薬師)



3. 都心周辺エリア(洛西地域)の交通状況



洛西ニュータウンや桂坂などの住宅地と京都大学桂キャンパスなどのある洛西地域の最寄り駅としては、阪急桂駅や洛西口駅、JR向日町駅などもあるが、駅へのアクセス利便性は高いとは言えない。

4. 都心周辺エリア(南部地域)の交通状況



- 国道1号などの周辺の幹線道路は、朝の通勤時間帯は渋滞している。
- 公共交通の利便性が十分に確保できていないため、タクシーの乗合や企業が自前で運行するシャトルバスを利用した通勤が行われている。

(参考) 高度集積地区



「高度集積地区」は、京都駅の南側に位置し、京都市南部を南北に貫く幹線道路である油小路通沿道を中心とする地域。

この地域では、先端技術を取り扱う企業を誘致し、京都の創造を担う地域としてのまちづくりと、企業活動を支える交通システムの構築が期待されている。



交通施策の紹介



1. LRT (Light Rail Transit)

道路空間の一部を使って都市圏内の輸送を担う、次世代型路面電車。
バリアフリー、高い定時性、環境にやさしいまちづくりへの貢献などが主な特徴。
国内での導入事例は、まだ少ないが、熊本市や富山市で導入されている。



(フランス・リヨンのLRT)

2. IBT(Intelligent Bus Transit)

(エコ&インテリジェント高機能バスシステム)

専用レーンを設け、高速かつ高い定時性を確保する、環境にもやさしいインテリジェント高機能バスシステム。



3. ロードプライシング

特定の道路利用に対して直接的に課金することにより、交通需要を管理する方法。実際、都市部で導入されているのは、ノルウェー(オスロ)、シンガポール、イギリス(ロンドン)など。



(ノルウェー・オスロのロードプライシング)



(車種別料金の表示)



(料金収受機)

4. コミュニティバス(醍醐コミュニティバス)

- ・醍醐コミュニティバスは、市バス撤退後の地域内移動の利便性確保を目指し、地域住民の手で作上げたコミュニティバス。
- ・コミュニティバスを通した取組が、地域のコミュニティを活かした市民本位・市民参加の仕組みづくりにもつながっている。



第1回審議会が出された意見等



第1回審議会での主な意見

(未来の公共交通まちづくり検討部会の検討内容にかかるものを抜粋)

- 徒歩と公共交通の役割の中で、自転車の役割が明確になっていない。
- 10年後とかではなく、できることからやっていかなければならない。
- ライフスタイルや価値観まで、変化を訴えることができるのは、京都だけ。
- 平安京では、最先端のまちであったが、無計画に車が増え、今の交通実態になった。
- 市内に流入するクルマを抑制する政策を打ち出す必要がある。
- 公共交通を中心とした環境にやさしいまちづくりの全国のモデルとして期待。
- 「歩くまち・京都」の大前提は、安全・安心。
- 低密度で拡散したまちは、公共交通が成り立ちにくい。「歩いてらせるまち」にはなれない。
- 計画だけでなく、実現することが、環境モデル都市のシンボルプロジェクト。
- 新たな交通手段としてレンタサイクルとかLRTといった手段も考えていけるとよい。
- LRTがどういうものであるかまず早く見せること、そして体感することが大事。

検討部会の今後の進め方

平成20年7月11日 第1回審議会の開催

平成20年8月7日 第1回検討部会

以後、平成21年2月までに、以下の内容を部会としてとりまとめ

- “都市と交通”のビジョンの提示
- まちづくりの実現に向けた数値目標の提示

平成21年3月頃 審議会において中間とりまとめ

パブリックコメントの実施

平成21年夏 最終とりまとめ・答申

検討部会での検討内容は、審議会(2ヶ月に1回程度開催)において報告

